

# 国道20号無電柱化における道路空間の景観・環境の改善の取組み

朱通恭章

## 1. はじめに

江戸時代に整備された五街道のひとつである「甲州街道」を継承する国道20号は、東京都中央区を起点とし、八王子市、相模原市、甲府市などを経て長野県塩尻市に至る延長約230kmの主要幹線道路である。

国道20号東京都調布市（飛田給地先）の味の素スタジアム（東京スタジアム）前について、無電柱化実施後の路面復旧にあわせて、修景整備を実施するため、道デザイン研究会で議論しアドバイスをいただきながら修景検討を行い地上機器の配置計画や小型化、道路植栽と歩道舗装の改善を行った。

本稿では修景検討の結果を踏まえて一部概成している修景整備の取り組み状況を報告する。

## 2. 修景整備

### 2.1 修景整備区間の現地状況

今回、修景整備を行う区間は、2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックの競技会場となる味の素スタジアム（東京スタジアム）周辺の約700mの区間となっている（図-1）。

工事着手前（平成27年8月時点）の現地状況は写真のとおりであった（写真-1）、（写真-2）。



図-1 修景整備区間図



写真-1 メインスタジアム前区間(平成27年8月時点)



写真-2 植栽帯整備済区間（平成27年8月時点）

メインスタジアム前区間の武蔵野の森総合スポーツ施設に面しているところ（青色部分）では、東京都の施工による施設側の整備が既に始まっていて仮囲いが設置されている状況であった。また、歩道内には植栽がない状況であった。

植栽帯整備済区間では民地側の植栽もあり、木々が生い茂りうっそうとした雰囲気であった。

## 2.2 整備方針

道デザイン研究会において計4回（平成27年度末～平成29年度末）に渡って議論し修景の方向性についてアドバイスをいただいた結果を踏まえ、整備方針として大きく3項目にとりまとめた。

- (1) 歩道舗装
- (2) 電線共同溝の地上機器の設置
- (3) 道路植栽

### 2.2.1 歩道舗装

歩道舗装については、整備前はインターロッキングブロック舗装やアスファルト舗装だったが、夏季の暑熱対策に加え、雨水を地中に浸透させることで流出量の低減を図るストームウォーターマネジメントの観点から、透水性機能を付加した遮熱性平板舗装を相武国道事務所管内の国道20号では初めて敷設することとした。また、調布市道のスタジアム通りの整備に合わせて赤茶系の舗装色とすることとした。

### 2.2.2 電線共同溝の地上機器の設置

電線共同溝の地上機器については、一定間隔での設置が必要なことから、歩道幅員を極力確保するため、民地側（東京都用地）に設置することとした。また、地上機器については、小型化の開発が進んでいる変圧器について、低地上高型（高さ800mm×幅450mm×長さ1,100mm）の機器を設置し、景観に配慮することとした。

### 2.2.3 道路植栽

道路植栽については、植栽帯整備済区間において歩道空間に閉塞感を与えている中低木は撤去し、防草対策を考慮した植栽（埋設ユニット型）を設置することとした。あわせて、大径木化し建築限界を侵していたり、老木化し倒木の恐れのある高木は撤去し、埋設ユニットに地被類を植えることにより緑量を確保することとした。存置した高木には植樹柵内に根元を覆うツリーサークルを設置し、歩行者の踏みつけなどから根元を保護するとともに、植樹柵内を歩行可能な空間とすることで

歩道の有効幅員を確保することとした。

## 2.3 整備状況

### 2.3.1 メインスタジアム前区間

メインスタジアム前の区間の整備状況について、現在（令和元年7月時点）の状況である（写真-3）。整備途中であるが、イメージパースに近い整備が概成している（図-2）。

歩道舗装については、歩行者の暑熱対策のため、透水性機能を合わせ持った「遮熱性平板」を採用した。また、調布市道のスタジアム通りと同じ赤茶系の舗装色とした。



写真-3 現在の状況（令和元年7月時点）



図-2 イメージパース



写真-4 地上機器の設置状況

電線共同溝の地上機器については、東京都用地の武蔵野の森総合スポーツプラザの植え込み内に移動して設置した。また、小型化の開発が進んでいる変圧器については、低地上高型（高さ800mm×幅450mm×長さ1,100mm）の機器を設置し、景観に配慮した（写真-3の地上機器は開閉器）（写真-4）。

植栽については、整備前は歩道内には植栽がなかったが、縁石の背面に新たに埋設ユニットを設置し、地被類を植えることにより緑量を確保した。

この後、車道部の遮熱性舗装を行い整備完了となる。

### 2.3.2 植栽帯整備済区間

植栽帯整備済区間の整備状況について、現在（令和元年7月時点）の状況である（写真-5）。整備途中であるが、イメージパースに近い整備が概成している（図-3）。

歩道舗装については、メインスタジアム前区間と同様に、透水性機能を合わせ持った「遮熱性平板」を採用した。舗装色も同じ赤茶系とした。

電線共同溝の地上機器については、既存の機器を移動し、隣接する東京都の都営住宅敷地の公園内に設置した。また、変圧器については、メインスタジアム前区間と同様に低地上高型（高さ800mm×幅450mm×長さ1,100mm）の機器を設置した（写真-6）。

植栽については、歩道空間に閉塞感を与えていた中低木は撤去し、防草対策を考慮した植栽（埋設ユニット型）を設置した。あわせて、大径化し建築限界を侵していたり、老木化し倒木の恐れのある高木は撤去し、埋設ユニットに地被類を植えることにより緑量を確保した。存置した高木には植樹樹内に根元を覆うツリーサークルを設置し、歩行者の踏みつけなどから根元を保護するとともに、植樹樹内を歩行可能な空間とすることで歩道の有効幅員を確保した。

この後、車道部の遮熱性舗装を行い整備完了となる。

### 2.3.3 埋設ユニット

埋設ユニットに植える花の種類については、2020年東京オリンピック・パラリンピックが夏季（7月～9月）におこなわれるため、開花時期や耐暑性、メンテナンスなどの特徴を踏まえて、大会開催時期に開花期を迎える、ヤブランを中心



写真-5 現在の状況（令和元年7月時点）



図-3 イメージパース



写真-6 地上機器の設置状況

混合(A)	オタフクナンテン	ヤブラン	オタフクナンテン	斑入りヤブラン	オタフクナンテン	ヤブラン
混合(B)	オタフクナンテン	ヤブラン	ミニアガパンサス	斑入りヤブラン	オタフクナンテン	ヤブラン

  

原産国	日本	日本	日本	南アフリカ
区分	常緑低木	常緑多年草	常緑多年草	多年草
草丈	20cm～50cm	20cm～40cm	30cm～40cm	30cm～
開花期	6月頃	8月～10月	8月～10月	5月下旬～8月上旬
特徴	耐暑性強い	耐暑性強い	耐暑性強い	耐暑性強い
	耐病性強い	耐病性強い	耐病性強い	半耐暑性
	害虫がつきにくい	害虫がつきにくい	日陰に強い	多湿に弱い
	日陰に強い	日陰に強い	生育旺盛	

図-2 埋設ユニット配植図

とした3種類の混合④で配植した（図-2）。

### 2.3.4 ペDESTリアンデッキからの眺望

味の素スタジアム前交差点に架かるペDESTリアンデッキから眺めた全景の状況について、八王子方面の整備前（平成27年8月時点）（写真-7）、現在（令和元年7月時点）（写真-8）の状況である。



写真-7 整備前の状況（平成27年8月時点）



写真-8 現在の状況（令和元年7月時点）

新宿方面の整備前（平成27年8月時点）（写真-9）、現在（令和元年7月時点）（写真-10）の状況である。



写真-9 整備前の状況（平成27年8月時点）

(新宿方面を望む)



写真-10 現在の状況（令和元年7月時点）

この後、車道部の遮熱性舗装を行い整備完了となる。

### 3. おわりに

修景検討に際しては、道デザイン研究会において計4回（平成27年度末～平成29年度末）に渡って議論いただきストームウォーターマネジメント及び埋設ユニットの使用など修景の方向性についてアドバイスをいただいた。景観・環境改善の取り組みとして、この地域にふさわしい道路空間の修景整備が行えた。

平成30年度より着手した味の素スタジアム（東京スタジアム）周辺の修景整備は2019年ラグビーワールドカップ開催までに完了している。

最後に本取り組み実施にあたり、道デザイン研究会の屋井座長をはじめとした委員の方々や関係した方々に貴重なご意見を賜りましたことを深く感謝申し上げます。

朱通恭章



国土交通省関東地方整備局  
相武国道事務所 専門官  
Yasuaki SHUTSU